

- 問1 銀行などの金融機関が、家計（個人）から預かった資金を企業などに貸し出す際、受け取る利子（金利）と預金者に支払う利子の関係として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）
1. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。
 2. 貸し出す際の利子と預金者に支払う利子は、常に同額になるよう国によって指定されている。
 3. 景気が悪化したときのみ、預金者に支払う利子の方が高くなるように設定される。
 4. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも低く設定されている。
- 問2 日本銀行は、日本の中央銀行として一般の銀行とは異なる3つの大きな役割を持っています。そのうち、民間銀行に対して資金の貸し出しを行ったり、決済のための口座を提供したりする役割を何と呼びますか。（2025年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 発券銀行
 2. 銀行の銀行
 3. 日本政策投資銀行
 4. 政府の銀行
- 問3 ある期間において為替相場が1ドル＝138円から1ドル＝148円へと変動しました。このとき、海外から80ドルの商品を輸入して円で支払う場合、支払額はどのように変化するか説明として正しいものを選びなさい。（2025年 沖縄県公立入試 類似）
1. 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円減少する。
 2. 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円増加する。
 3. 円の価値が上がった（円高）ため、支払額は以前より800円増加する。
 4. 円の価値が上がった（円高）ため、支払額は以前より800円減少する。
- 問4 景気変動のモデル図において、経済活動が停滞し、景気の「谷」にあたる時期に日本銀行が実施する金融政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 奈良県公立入試 類似）
1. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する通貨量を減らす政策
 2. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策
 3. 政府が所得税や法人税の税率を引き上げ、景気の過熱を抑制する政策
 4. 日本銀行が紙幣の発行を停止し、民間の経済活動を制限する政策
- 問5 日本銀行が実施する「金融政策」について、不況時に景気を下支えするために行われる具体的な仕組みとして、適切なものはどれですか。（2018年 愛知県公立入試 類似）
1. 日本銀行が国債を買い入れ、市場の資金量を増やして金利を低下させる。
 2. 政府が所得税の累進課税を強化することで、所得の再分配を促進する。
 3. 政府が減税を実施することで、家計が自由に使えるお金を増やして消費を促す。
 4. 日本銀行が国債を売却し、市場の資金量を減らして物価の上昇を抑える。
- 問6 現代の経済における資金の供給ルートについて、家計が株式や社債を購入することで、証券市場を介して直接企業に資金が流れる仕組みを「直接金融」と呼びます。この「直接金融」で用いられる具体的な手段の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 普通預金・定期預金
 2. 株式・社債
 3. 保険料・年金
 4. 税金・補助金
- 問7 日本銀行が「買いオペレーション」を行い、その結果として市場の金利（利子）が低下した際、企業の経済活動にどのような影響を与えると期待されていますか。（2021年 福岡県公立入試 類似）
1. 資金の調達が困難になるため、企業は従業員の給与を削減してコストを抑えようとする。
 2. 借入金の利息負担が軽くなるため、工場建設や設備投資などの生産活動が活発になる。
 3. 通貨の価値が急激に上がるため、輸入原材料の価格が安くなり、製品の価格競争力が低下する。
 4. 銀行への預金から得られる利息が増えるため、企業は事業投資を控えて貯蓄を増やすようになる。
- 問8 好景気が続き、物価が急激に上昇する懸念がある際に日本銀行が行う「売りオペレーション」が、景気を抑制する仕組みとして最も適切な説明はどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）
1. 日本銀行が国債を買い取ること、市場に大量の現金が供給され、通貨の価値が上がること、物価の安定が図られる。
 2. 日本銀行が国債を買い取ること、銀行の資金調達が困難になり、利子が増えること、家計の貯蓄が促進される。
 3. 日本銀行が国債を売ることで、市中銀行の資金が減って企業などへの貸し出しが抑えられ、消費や投資の行き過ぎが改善される。
 4. 日本銀行が国債を売ることで、市中銀行の資金が増えて金利が下がり、企業がより多くの設備投資を行えるようになる。
- 問9 日本銀行が「銀行の銀行」と呼ばれている理由を、その仕組みから説明したものとして正しいものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
1. 民間の金融機関のみを取引相手として、資金の預かりや貸し出しを行うため。
 2. 政府の指示に基づいて、すべての銀行の支店設置場所を決定するため。
 3. 世界中の主要な銀行に資金を提供し、国際的な通貨価値を統一するため。
 4. 全国の銀行の経営方針を決定し、銀行員の人事権を掌握しているため。
- 問10 企業や商店が事業資金を確保する際、銀行などの金融機関が仲介役となり、預金者から集めた資金を貸し出す仕組みを何といいますか。（2019年 群馬県公立入試 類似）
1. 直接金融
 2. 株式公開
 3. 間接金融
 4. クラウドファンディング
- 問11 インフレーションが発生して景気が過熱している際、日本銀行が景気を抑制するために行う公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）の手順と、その結果生じる金融市場の変化として適切なものはどれか。（2018年 神奈川県公立入試 類似）
1. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場の通貨量を減少させることで、金利を上昇させる
 2. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場の通貨量を増加させることで、金利を低下させる
 3. 日本銀行が民間銀行から国債を買い入れ、市場の通貨量を減少させることで、金利を上昇させる
 4. 日本銀行が民間銀行から国債を買い入れ、市場に通貨を供給することで、金利を低下させる
- 問12 好景気（好況）の際には、消費者の購買意欲が高まって商品の売れ行きが良くなり、企業の生産活動がより活発になります。このような経済状況において、物価が継続的に上昇し続ける現象を何といいますか。（2026年 福岡県公立入試 類似）
1. 円高
 2. インフレーション
 3. スタグフレーション
 4. デフレーション
- 問13 私たちの経済生活において、銀行などの金融機関は家計から預金として集めた資金を、資金を必要とする企業などの借り手に貸し出しています。このように、金融機関が貸し手と借り手の間に入り、資金を仲介する仕組みを何といいますか。（2021年 岐阜県公立入試 類似）
1. 直接金融
 2. 信用創造
 3. 公開市場操作
 4. 間接金融
- 問14 景気の過熱や物価の上昇を抑えるために日本銀行が行う「公開市場操作」において、保有する国債などを一般の金融機関に売却し、市場に流通する通貨量を減少させる操作を何といいますか。（2026年 栃木県公立入試 類似）
1. 買いオペレーション
 2. 公定歩合操作
 3. 売りオペレーション
 4. 預金準備率操作

答え合わせ・解説

問1	答え 1 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。	金融機関は、預金として集めた資金を必要とする人や企業に貸し出す「間接金融」の役割を担っています。この際、貸し出す際の利子（金利）を預金者に支払う利子よりも高く設定することで、その差額を銀行の運営費用や利益としています。この仕組みによって、金融機関は持続的な経営が可能となります。
問2	答え 2 銀行の銀行	日本銀行は、私たち個人や一般の企業とは直接取引を行わず、民間銀行などの金融機関との間で資金の貸し借りや決済を行うため「銀行の銀行」と呼ばれます。なお、国の税金などの出し入れを管理する役割は「政府の銀行」、紙幣（日本銀行券）を発行する役割は「発券銀行」と呼ばれ、これらが日本銀行の主要な3機能です。
問3	答え 2 円の価値が下がった（円安）ため、支払額は以前より800円増加する。	1ドルあたりの価格が138円から148円になることは、1ドルの商品を買うのに必要な円が10円増えたことを示しており、これを円安と呼びます。80ドルの商品を輸入する場合、以前は「138円 × 80ドル = 11,040円」の支払いでしたが、変動後は「148円 × 80ドル = 11,840円」となります。この差額を計算すると「11,840 - 11,040 = 800円」となり、支払額が800円増加したことがわかります。
問4	答え 2 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策	景気が落ち込んでいる時期（不景気）には、日本銀行は市場の通貨量を増やすことで景気の回復を図ります。具体的には、日本銀行が一般の民間銀行が保有している国債を買い上げる「買いオペレーション」を実施します。これにより、銀行が持つ資金が増え、企業や個人への貸し出しが促進されることで、経済活動の活性化を狙います。
問5	答え 1 日本銀行が国債を買い入れ、市場の資金量を増やして金利を低下させる。	中央銀行である日本銀行が、公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）を通じて通貨供給量を調整することを金融政策と呼びます。景気が悪いときには、日本銀行が市場から国債を買い入れることで、世の中に出回るお金の量を増やし、金利を下げることで景気を刺激します。なお、減税や公共事業などは政府が行う「財政政策」であり、日本銀行が行う金融政策とは区別されます。
問6	答え 2 株式・社債	直接金融は、企業が発行する有価証券を家計などが直接買い取ることで成立します。代表的なものに、出資の証券である「株式」や、企業が借入のために発行する債券である「社債」があります。一方で、預金を通じて銀行が企業に貸し付ける形態は間接金融に分類されます。
問7	答え 2 借入金の利息負担が軽くなるため、工場建設や設備投資などの生産活動が活発になる。	買いオペレーションによって金利が下がると、企業は以前よりも低いコストで事業資金を借り入れることができるようになります。この結果、将来の収益を見込んだ新たな設備投資や事業拡大が行われやすくなり、雇用や消費が生まれて景気が上向くという因果関係が期待されています。景気回復を目的とした金融政策の重要な狙いの一つです。
問8	答え 3 日本銀行が国債を売ることで、市中銀行の資金が減って企業などへの貸し出しが抑えられ、消費や投資の行き過ぎが改善される。	日本銀行が国債を売却すると、代金を支払った市中銀行の資金（手元資金）が減少します。銀行の資金が少なくなると、銀行は企業や個人へお金を貸し出す際の金利を上げたり、貸し出しを手控えたりするようになります。その結果、世の中の通貨量が減り、過剰な設備投資や消費が抑えられることで、景気を安定させる方向に働きます。これが好景気時の景気抑制（金融引き締め）のプロセスです。
問9	答え 1 民間の金融機関のみを取引相手として、資金の預かりや貸し出しを行うため。	日本銀行は、私たち一般の個人や民間企業との取引は行いません。その代わりに、三菱UFJ銀行や地方銀行といった「民間の金融機関」を相手に、資金の貸し出しや預金の受け入れを行います。このように、銀行にとっての「銀行」のような役割を果たしていることから、この名称と呼ばれます。これにより、金融市場全体の資金供給量をコントロールしています。
問10	答え 3 間接金融	資金の出し手である預金者と、借り手である企業などの間に銀行が入り、融資という形で資金を仲介する仕組みです。預金者は銀行に資金を預け、銀行がその資金を運用して企業に貸し出すため、貸し手と借り手が直接取引をしないことが特徴です。
問11	答え 1 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場の通貨量を減少させることで、金利を上昇させる	景気が行き過ぎた場合、日本銀行は「売りオペレーション」を実施します。日本銀行が国債を売って民間銀行から代金を回収することで、世の中に出回る通貨の量を減らします。お金の供給量が減ることで、資金を借りる際のコストである金利が上昇し、企業や個人の経済活動が抑制されることで物価の安定を図ります。
問12	答え 2 インフレーション	好景気のときには、モノやサービスに対する需要が供給を上回りやすくなるため、物価が上がり続けます。この現象をインフレーションと呼びます。これとは逆に、不景気で物価が下がり続ける状態はデフレーションと呼ばれます。
問13	答え 4 間接金融	資金の貸し手（家計・預金者）と借り手（企業など）が直接取引を行うのではなく、銀行などの金融機関が預金という形で資金を集め、自らの判断で貸し出しを行う方式です。金融機関が「仲介」の役割を果たすことが最大の特徴です。
問14	答え 3 売りオペレーション	景気が良すぎて物価が上がりすぎのを防ぐため、日本銀行は市場の通貨量を減らそうとします。日本銀行が国債を金融機関に売ると、その代金が民間から日本銀行に支払われるため、世の中に出回る通貨の量が減少します。この一連の流れを公開市場操作の「売りオペレーション」と呼びます。